



## 2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔 I F R S 〕（連結）

2025年7月24日

上場会社名 中外製薬株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4519 URL <https://www.chugai-pharm.co.jp>  
代表者 （役職名）代表取締役社長CEO （氏名）奥田 修  
問合せ先責任者 （役職名）広報IR部長 （氏名）宮田 香絵 TEL 03-3273-0554  
半期報告書提出予定日 2025年7月25日 配当支払開始予定日 2025年8月28日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有 （機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け）

（百万円未満四捨五入）

### 1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上収益		営業利益		中間利益		当社株主に 帰属する中間利益		中間包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	578,463	4.6	273,342	5.9	194,389	4.4	194,389	4.4	177,047	△7.6
2024年12月期中間期	552,860	△4.6	258,195	22.4	186,262	18.9	186,262	18.9	191,645	24.1

	基本的1株当たり 中間利益	希薄化後1株当たり 中間利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	118.13	118.12
2024年12月期中間期	113.20	113.19

#### （2）連結財政状態

	資産合計	資本合計	当社株主に 帰属する持分	当社株主 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2025年12月期中間期	2,278,347	1,985,127	1,985,127	87.1
2024年12月期	2,208,373	1,901,499	1,901,499	86.1

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	41.00	—	57.00	98.00
2025年12月期	—	125.00			
2025年12月期（予想）			—	125.00	250.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2025年12月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当50円00銭 記念配当75円00銭（創業100周年記念配当）  
2025年12月期期末配当金の内訳 普通配当50円00銭 記念配当75円00銭（創業100周年記念配当）  
2025年12月期年間配当金の内訳 普通配当100円00銭 記念配当150円00銭（創業100周年記念配当）

### 3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（Core配当性向を除いて、予想の％表示は対前期増減率、実績の％表示は対予想進捗率）

	売上収益		Core 営業利益		Core 当期利益		Core EPS		Core 配当性向
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%	%
2025年12月期中間期（実績）	578,463	48.6	272,027	47.7	193,480	47.2	117.57	47.0	—
2025年12月期（予想）	1,190,000	1.7	570,000	2.5	410,000	3.2	250.00	3.6	100.0

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 上記「連結業績予想」は、当社が定める経常的な業績を示す指標（Coreベース）に基づき予想値及び実績を算出しております。また、Core EPSはCoreベースの当社株主に帰属する希薄化後1株当たり当期利益であります。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (中間期)

2025年12月期中間期	1,679,057,667株	2024年12月期	1,679,057,667株
2025年12月期中間期	33,354,340株	2024年12月期	33,531,864株
2025年12月期中間期	1,645,614,260株	2024年12月期中間期	1,645,392,637株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本業績予想作成時点において入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断した目標であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれているため、実際の成果や業績は記載の予想と異なる可能性があります。

(2) 当社が公表する業績予想は、当社社内の管理指標である国際会計基準 (以下、「IFRS」という) のCoreベースで株主・投資家の皆さまに開示するものであります。Core実績とは、IFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであります。なお、当社が非経常事項と捉える事項は、事業規模や範囲などの違いによりロシユと判断が異なる場合があります。当社ではCore実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。IFRS実績とCore実績の差異については、各期の業績開示の中で説明を行います。

(3) 業績予想に関する事項は添付資料P. 7「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(4) 当社は、以下のとおり決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用した資料、音声、Q&A等については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

・2025年7月24日 (木) ・ ・ ・ ・ ・ 機関投資家・証券アナリスト・報道機関向け説明会 (オンライン会議併用)

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結財政状態に関する説明 .....	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	7
2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記 .....	8
(1) 要約中間連結損益計算書及び要約中間連結包括利益計算書 .....	8
(2) 要約中間連結財政状態計算書 .....	10
(3) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(4) 要約中間連結持分変動計算書 .....	12
(5) 継続企業の前提に関する注記 .....	13
(6) 要約中間連結財務諸表注記 .....	13

# 1. 当中間決算に関する定性的情報

## （1）連結経営成績に関する説明

（単位：億円）

	2025年 中間期実績	2024年 中間期実績	前年同期比
連結損益（Core実績）			
売上収益	5,785	5,529	+4.6%
製商品売上高	5,114	4,855	+5.3%
その他の売上収益	670	673	△0.4%
売上原価	△1,752	△1,602	+9.4%
売上総利益	4,033	3,926	+2.7%
研究開発費	△863	△840	+2.7%
販売費及び一般管理費	△454	△466	△2.6%
その他の営業収益（費用）	4	8	△50.0%
営業利益	2,720	2,628	+3.5%
中間利益	1,935	1,895	+2.1%
連結損益（IFRS実績）			
売上収益	5,785	5,529	+4.6%
営業利益	2,733	2,582	+5.8%
中間利益	1,944	1,863	+4.3%

### <連結損益の概要（IFRSベース）>

当中間連結会計期間の売上収益は5,785億円（前年同期比4.6%増）、営業利益は2,733億円（同5.8%増）、中間利益は1,944億円（同4.3%増）となりました。これらには当社が管理する経常的業績（Coreベース）では除外している無形資産の償却費8億円、無形資産の減損損失1億円、事業再構築費用63億円及び事業所閉鎖に伴う固定資産売却益を含む事業所再編費用84億円（収益）が含まれています。

### <連結損益の概要（Coreベース）>

当中間連結会計期間の売上収益は、製商品売上高が増加し、5,785億円（前年同期比4.6%増）となりました。

売上収益のうち、製商品売上高は5,114億円（同5.3%増）となりました。国内製商品売上高は、薬価改定や後発品浸透等の影響を受けたものの、新製品のフェスゴ、ピアスカイ、主力品のバビースモが大幅に増加し、前年同期を上回りました。海外製商品売上高は、ロシュ向けのアクテムラ輸出が大幅に増加したため、前年同期を上回りました。その他の売上収益は、ヘムライブラに関する収入が増加したものの、一時金収入の減少等により670億円（同0.4%減）となりました。製商品原価率は、製品別売上構成比の変化等により34.3%と前年同期比で1.3ポイント上昇しました。結果、売上総利益は4,033億円（同2.7%増）となりました。

研究開発費は創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展に伴う費用の増加等により863億円（同2.7%増）、販売費及び一般管理費は諸経費等の減少により454億円（同2.6%減）となりました。その他の営業収益（費用）は4億円の収益（前年同期は8億円の収益）となりました。以上から、Core営業利益は2,720億円（同3.5%増）、Core中間利益は1,935億円（同2.1%増）となりました。

※Core実績について

当社はIFRS移行を機に2013年よりCore実績を開示しております。Core実績とは、IFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであります。なお、当社が非経常事項と捉える事項は、事業規模や範囲などの違いによりロシュと判断が異なる場合があります。当社ではCore実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

詳細は2025年7月24日付2025年12月期第2四半期（中間期）連結決算〔IFRS〕補足資料（以下、「補足資料」という）P.1「IFRS実績からCore実績への調整表」をご覧ください。

＜製商品売上高の内訳＞

（単位：億円）

	2025年 中間期実績	2024年 中間期実績	前年同期比
<b>製商品売上高</b>	<b>5,114</b>	<b>4,855</b>	<b>+5.3%</b>
<b>国内製商品売上高</b>	<b>2,233</b>	<b>2,172</b>	<b>+2.8%</b>
オンコロジー領域	1,166	1,188	△1.9%
スペシャリティ領域	1,067	984	+8.4%
<b>海外製商品売上高</b>	<b>2,881</b>	<b>2,684</b>	<b>+7.3%</b>

〔国内製商品売上高〕

国内製商品売上高は、薬価改定及び後発品浸透等の影響を受けたものの、新製品及び主力品が伸長し、2,233億円（前年同期比2.8%増）となりました。

オンコロジー領域の売上高は、1,166億円（同1.9%減）となりました。新製品の抗悪性腫瘍剤／抗HER2ヒト化モノクローナル抗体・ヒアルロン酸分解酵素配合剤「フェスゴ」の売上が大幅に増加したほか、2025年3月に発売した抗悪性腫瘍剤／抗CD20/CD3ヒト化二重特異性モノクローナル抗体「ルンスミオ」が順調に市場浸透しているものの、薬価改定及び後発品浸透の影響により、主力品の抗悪性腫瘍剤／抗VEGFヒト化モノクローナル抗体「アバスチン」の売上が減少しました。また、抗悪性腫瘍剤／抗HER2ヒト化モノクローナル抗体「パージェタ」は、同剤を含む配合皮下注製剤である「フェスゴ」の市場浸透影響を主因に前年同期を大幅に下回りました。

スペシャリティ領域の売上高は、1,067億円（同8.4%増）となりました。薬価改定及び後発品浸透の影響を受けたものの、主力品の眼科用VEGF/Ang-2阻害剤／抗VEGF／抗Ang-2ヒト化二重特異性モノクローナル抗体「バビースモ」の大幅な増加や、新製品のpH依存的結合性ヒト化抗補体（C5）モノクローナル抗体「ピアスカイ」の好調な市場浸透に加え、主力品の血液凝固第Ⅷ因子機能代替製剤／抗血液凝固第Ⅸa/X因子ヒト化二重特異性モノクローナル抗体「ヘムライブラ」やpH依存的結合性ヒト化抗IL-6レセプターモノクローナル抗体「エンスプリング」が増加しました。

〔海外製商品売上高〕

海外製商品売上高は2,881億円（前年同期比7.3%増）となりました。ロシュ向け輸出については、「ヘムライブラ」が前年同期比で減少した一方、ヒト化抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体「アクテムラ」が大幅に伸長しました。

## 研究開発活動の状況

当中間連結会計期間におけるCoreベースの研究開発費は863億円(前年同期比2.7%増)、売上収益研究開発費比率は14.9%となりました。

2025年1月1日から2025年6月30日までの研究開発活動の進捗状況は以下のとおりです。

### 「がん領域」

- ・抗悪性腫瘍剤／抗PD-L1ヒト化モノクローナル抗体「RG7446」(製品名:「テセントリク」)は、2025年2月に、切除不能な膵臓状軟部肉腫に対する適応拡大の承認を取得しました。加えて、同年5月に切除不能な胸腺がんを対象として適応拡大の承認申請を行いました。また、第Ⅲ相国際共同治験「CONTACT-02試験」の結果に鑑み、前立腺がん[二次治療](カボザンチニブ併用)を対象とする国内における開発を中止しました。さらに、これまで実施された臨床試験結果に鑑み、早期乳がん(周術期)を対象とする開発を中止しました。
- ・抗悪性腫瘍剤／ALK阻害剤「AF802/RG7853」(製品名:「アレセンサ」)は、2025年6月にALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の固形がんを対象として適応拡大の承認申請を行いました。
- ・抗悪性腫瘍剤／抗CD20/CD3ヒト化二重特異性モノクローナル抗体「RG7828」(製品名:「ルンスミオ」)は、2025年5月に、再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫(「ポライビー」との併用)を対象として適応拡大の承認申請を行いました。
- ・「MINT91」は、2025年4月に、固形がんを対象として第Ⅰ相臨床試験を開始しました。
- ・pan-KRAS阻害剤「AUBE00」は、2025年6月に、固形がんを対象として第Ⅰ相臨床試験を開始しました。
- ・抗TIGITヒトモノクローナル抗体「RG6058」は、第Ⅲ相国際共同治験「SKYSCRAPER-01試験」及び「SKYSCRAPER-07試験」の結果に鑑み、非小細胞肺癌[一次治療]、及び食道がん(いずれも「テセントリク」との併用)を対象とする開発をそれぞれ中止しました。
- ・抗HER2/CD3バイスペシフィック抗体「RG6194」は、戦略上の理由から、固形がんを対象とする開発を中止しました。
- ・抗VEGF(血管内皮増殖因子)ヒト化モノクローナル抗体「RG435」(製品名:「アバスチン」)は、第Ⅲ相臨床試験「BEAT-SC試験」の結果に鑑み、小細胞肺癌[一次治療](「テセントリク」との併用)を対象とする開発を中止しました。

### 「免疫疾患領域」

- ・免疫抑制剤「セルセプト」は、2025年3月に、難治性のネフローゼ症候群(頻回再発型あるいはステロイド依存性を示す場合)を対象として公知申請を行いました。
- ・抗TL1A抗体「RG6631」は、2025年4月に、潰瘍性大腸炎を対象として第Ⅲ相国際共同治験を開始しました。

### 「神経疾患領域」

- ・ウイルスベクター製品「RG6356/SRP-9001」(製品名:「エレビジス」)は、2025年5月に、デュシェンヌ型筋ジストロフィー(エクソン8及び/またはエクソン9の一部または全体の欠失変異を有さず、抗AAVrh74抗体が陰性である3歳以上8歳未満の歩行可能な方)の治療を目的とした再生医療等製品として国内で条件及び期限付承認に該当する製造販売承認を取得しました。
- ・pH依存的結合性ヒト化抗IL-6レセプターモノクローナル抗体「SA237/RG6168」(製品名:「エンズプリング」)は、2025年4月にデュシェンヌ型筋ジストロフィーを対象として第Ⅱ相臨床試験を開始しました。

### 「血液疾患領域」

- ・血液凝固Ⅷ因子機能代替製剤／抗血液凝固Ⅸa/X因子ヒト化二重特異性モノクローナル抗体「ACE910/RG6013」(製品名:「ヘムライブラ」)は、2025年6月にフォン・ヴィレブランド病を対象として第Ⅲ相国際共同治験を開始しました。

**「眼科領域」**

- ・眼科用VEGF/Ang-2阻害剤／抗VEGF/抗Ang-2ヒト化二重特異性モノクローナル抗体「RG7716」（製品名：「バビースモ」）は、2025年5月に、脈絡膜新生血管を伴う網膜色素線条に対する適応拡大の承認を取得しました。また、同年5月に、非増殖糖尿病網膜症を対象として国内第Ⅲ相臨床試験を開始しました。

**「その他の領域」**

- ・抗補体C1sリサイクリング抗体「RAY121」は、2025年3月に、第Ⅰ相臨床試験を開始しました。
- ・抗潜在型ミオスタチンスイーピング抗体「GYM329/RG6237」は、2025年5月に、肥満症を対象として第Ⅱ相臨床試験を開始しました。



(2) 連結財政状態に関する説明

＜資産、負債及び純資産の状況＞

(単位：億円)

	2025年 中間期末実績	2024年 期末実績	前期末比
純営業資産（NOA）及び純資産			
純運転資本	4,417	4,487	△70
長期純営業資産	5,499	4,989	510
<b>純営業資産（NOA）</b>	<b>9,915</b>	<b>9,476</b>	<b>439</b>
ネット現金	10,276	9,963	313
その他の営業外純資産	△340	△425	85
<b>純資産合計</b>	<b>19,851</b>	<b>19,015</b>	<b>836</b>
連結財政状態計算書（IFRS実績）			
資産合計	22,783	22,084	699
負債合計	△2,932	△3,069	137
純資産合計	19,851	19,015	836

当中間連結会計期間末における純営業資産（NOA）は前連結会計年度末に比べ439億円増加し、9,915億円となりました。うち、純運転資本は設備未払金が減少した一方で、営業債務の増加等により前連結会計年度末に比べ70億円減少し、4,417億円となりました。また、長期純営業資産は主に宇都宮工場におけるバイオ原薬製造棟（UT3）及び注射剤棟（UTA）への投資により前連結会計年度末から510億円増加し、5,499億円となりました。

次項「キャッシュ・フローの状況」で示すとおり、有価証券や有利子負債を含むネット現金は前連結会計年度末に比べ313億円増加し、1兆276億円となりました。その他の営業外純資産は主に未払法人所得税の減少により前連結会計年度末から85億円増加し、△340億円となりました。

これらの結果、純資産合計は前連結会計年度末に比べ836億円増加し、1兆9,851億円となりました。

※純営業資産（NOA）及び純資産について

連結財政状態計算書は国際会計基準第1号「財務諸表の表示」に基づいて作成しております。一方で、純営業資産（NOA）及び純資産は、連結財政状態計算書を内部管理の指標として再構成したものであり、ロシュも同様の指標を開示しております。なお、純営業資産（NOA）及び純資産にはCore実績のような除外事項はありません。

詳細は補足資料P.8「財政状態」をご覧ください。

※純営業資産（NOA）について

純営業資産（NOA：Net Operating Assets）は金融取引や税務上の取引とは独立に当社グループの業績を評価することを可能としております。純営業資産は純運転資本及び有形固定資産、使用権資産、無形資産等を含む長期純営業資産から引当金を控除することで計算しております。



<キャッシュ・フローの状況>

（単位：億円）

	2025年 中間期実績	2024年 中間期実績	前年同期比
フリー・キャッシュ・フロー			
営業利益	2,733	2,582	+5.8%
調整後営業利益	2,898	2,751	+5.3%
営業フリー・キャッシュ・フロー	2,368	1,695	+39.7%
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>1,228</b>	<b>1,347</b>	<b>△8.8%</b>
ネット現金の純増減	313	767	△59.2%
連結キャッシュ・フロー計算書（IFRS実績）			
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,861	1,716	+8.4%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,335	△1,729	△22.8%
財務活動によるキャッシュ・フロー	△978	△695	+40.7%
現金及び現金同等物の増減額	△431	△649	△33.6%
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,971	3,938	+26.2%

営業利益から、営業利益に含まれる減価償却費などのすべての非現金損益項目及び純営業資産に係るすべての非損益現金流入出を調整した調整後営業利益は、2,898億円（前年同期比5.3%増）となりました。

調整後営業利益から純運転資本等の減少161億円等があった一方で、有形固定資産の取得による支出489億円や無形固定資産の取得による支出162億円等により、営業フリー・キャッシュ・フローは2,368億円（同39.7%増）の収入となりました。純運転資本等の減少要因は前項「資産、負債及び純資産の状況」に記載したとおりです。

営業フリー・キャッシュ・フローから法人所得税1,072億円を支払ったこと等により、フリー・キャッシュ・フローは1,228億円（同8.8%減）の収入となりました。

フリー・キャッシュ・フローから配当金の支払938億円等を調整したネット現金の純増減は313億円の増加となりました。

また、有価証券及び有利子負債の増減を除いた現金及び現金同等物は431億円減少し、当中間期末残高は4,971億円となりました。

※フリー・キャッシュ・フロー（FCF）について

連結キャッシュ・フロー計算書は国際会計基準第7号「キャッシュ・フロー計算書」に基づいて作成しております。一方で、FCFは、連結キャッシュ・フロー計算書を内部管理の指標として再構成したものであり、ロシユも同様の指標を開示しております。なお、FCFにはCore実績のような除外事項はありません。

詳細は補足資料P.9「キャッシュ・フロー」をご覧ください。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年1月30日に公表いたしました連結業績予想から修正しておりません。

※本項1.「当中間決算に関する定性的情報」において、金額は億円未満を四捨五入しております。また、増減及び%は億円単位で表示された数字で計算しております。

## 2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記

### （1）要約中間連結損益計算書及び要約中間連結包括利益計算書

#### 【要約中間連結損益計算書】

	(単位：百万円)	
	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
<b>売上収益</b>	<b>578,463</b>	<b>552,860</b>
製商品売上高	511,439	485,532
その他の売上収益	67,025	67,328
売上原価	△175,891	△160,890
<b>売上総利益</b>	<b>402,573</b>	<b>391,970</b>
 研究開発費	△86,591	△84,292
販売費及び一般管理費	△51,648	△49,901
その他の営業収益（費用）	9,008	419
<b>営業利益</b>	<b>273,342</b>	<b>258,195</b>
 金融費用	△54	4
その他の金融収入（支出）	△1,458	491
<b>税引前中間利益</b>	<b>271,830</b>	<b>258,690</b>
 法人所得税	△77,441	△72,428
<b>中間利益</b>	<b>194,389</b>	<b>186,262</b>
 中間利益の帰属：		
当社の株主持分	194,389	186,262
 1株当たり中間利益		
基本的1株当たり 中間利益（円）	118.13	113.20
希薄化後1株当たり 中間利益（円）	118.12	113.19

【要約中間連結包括利益計算書】

（単位：百万円）

	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間利益	194,389	186,262
その他の包括利益		
確定給付制度の再測定	△12	37
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産	65	△22
純損益に振り替えられない項目 合計	54	15
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産	0	5
キャッシュ・フロー・ヘッジ	△19,362	△3,538
在外子会社等の為替換算差額	1,967	8,902
のちに純損益に振り替えられる 可能性のある項目合計	△17,395	5,369
その他の包括利益合計	△17,341	5,384
中間包括利益	177,047	191,645
中間包括利益の帰属：		
当社の株主持分	177,047	191,645

（2）要約中間連結財政状態計算書

（単位：百万円）

	当中間連結会計期間末 (2025年6月30日)	前連結会計年度末 (2024年12月31日)
資産		
非流動資産：		
有形固定資産	456,755	433,129
使用権資産	14,591	8,425
無形資産	33,292	17,868
繰延税金資産	72,019	69,835
退職後給付資産	14,031	13,978
その他の非流動資産	68,127	59,094
<b>非流動資産合計</b>	<b>658,814</b>	<b>602,330</b>
流動資産：		
棚卸資産	235,526	240,067
営業債権及びその他の債権	316,747	334,256
未収法人所得税	210	896
有価証券	530,521	456,143
現金及び現金同等物	497,088	540,202
その他の流動資産	39,441	34,479
<b>流動資産合計</b>	<b>1,619,532</b>	<b>1,606,043</b>
<b>資産合計</b>	<b>2,278,347</b>	<b>2,208,373</b>
負債		
非流動負債：		
繰延税金負債	△5,217	△5,076
退職後給付負債	△4,220	△3,935
長期引当金	△2,303	△2,188
その他の非流動負債	△13,203	△5,319
<b>非流動負債合計</b>	<b>△24,943</b>	<b>△16,516</b>
流動負債：		
未払法人所得税	△71,797	△108,732
短期引当金	△1,033	△2,974
営業債務及びその他の債務	△78,417	△65,353
その他の流動負債	△117,029	△113,298
<b>流動負債合計</b>	<b>△268,276</b>	<b>△290,357</b>
<b>負債合計</b>	<b>△293,219</b>	<b>△306,873</b>
<b>純資産合計</b>	<b>1,985,127</b>	<b>1,901,499</b>
資本の帰属：		
当社の株主持分	1,985,127	1,901,499
<b>資本合計</b>	<b>1,985,127</b>	<b>1,901,499</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>2,278,347</b>	<b>2,208,373</b>

(3) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業活動による現金創出	286,336	278,669
運転資本の減少(△は増加)	16,081	△66,963
確定給付制度に係る拠出	△1,188	△1,454
引当金の支払	△2,353	△2,140
その他の営業活動	△5,554	3,488
<b>小計</b>	<b>293,323</b>	<b>211,601</b>
法人所得税の支払	△107,240	△40,038
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>186,084</b>	<b>171,563</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得	△48,925	△32,871
無形資産の取得	△16,230	△1,690
有形固定資産の処分	7,357	△214
無形資産の処分	28	544
利息及び配当金の受取	1,417	1,462
有価証券の取得	△589,985	△480,143
有価証券の売却	515,630	340,090
投資有価証券の取得	△2,761	△68
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△133,469</b>	<b>△172,890</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
利息の支払	△165	△45
リース負債の支払	△3,957	△4,014
配当の支払—当社株主持分	△93,846	△65,500
ストック・オプションの行使	126	94
自己株式の減少(△は増加)	△2	△5
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△97,843</b>	<b>△69,469</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,114	5,884
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>△43,114</b>	<b>△64,913</b>
現金及び現金同等物の期首残高	540,202	458,674
<b>現金及び現金同等物の中間期末残高</b>	<b>497,088</b>	<b>393,761</b>

(4) 要約中間連結持分変動計算書

前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

(単位:百万円)

	当社の株主持分				合計	資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の 資本構成 要素		
2024年1月1日現在	73,202	69,355	1,488,738	△5,715	1,625,580	1,625,580
中間利益	—	—	186,262	—	186,262	186,262
その他の包括利益 を通じて公正価値 で測定する金融資産	—	—	—	△17	△17	△17
キャッシュ・ フロー・ヘッジ	—	—	—	△3,538	△3,538	△3,538
在外子会社等の 為替換算差額	—	—	—	8,902	8,902	8,902
確定給付制度の 再測定	—	—	37	—	37	37
中間包括利益合計	—	—	186,298	5,347	191,645	191,645
剰余金の配当	—	—	△65,813	—	△65,813	△65,813
株式報酬取引	—	△136	—	—	△136	△136
自己株式	—	414	—	—	414	414
2024年6月30日現在	73,202	69,633	1,609,224	△367	1,751,691	1,751,691

当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

(単位:百万円)

	当社の株主持分				合計	資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の 資本構成 要素		
2025年1月1日現在	73,202	69,896	1,746,934	11,468	1,901,499	1,901,499
中間利益	—	—	194,389	—	194,389	194,389
その他の包括利益 を通じて公正価値 で測定する金融資産	—	—	—	65	65	65
キャッシュ・ フロー・ヘッジ	—	—	—	△19,362	△19,362	△19,362
在外子会社等の 為替換算差額	—	—	—	1,967	1,967	1,967
確定給付制度の 再測定	—	—	△12	—	△12	△12
中間包括利益合計	—	—	194,377	△17,330	177,047	177,047
剰余金の配当	—	—	△93,795	—	△93,795	△93,795
株式報酬取引	—	△120	—	—	△120	△120
自己株式	—	495	—	—	495	495
2025年6月30日現在	73,202	70,271	1,847,517	△5,862	1,985,127	1,985,127

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) 要約中間連結財務諸表注記

①重要な会計方針等

(a) 作成の基礎

この要約中間連結財務諸表は、日本（東京）に所在し、東京証券取引所に上場（証券コード：4519）している中外製薬株式会社及びその子会社の要約中間連結財務諸表です。この要約中間連結財務諸表は2025年7月24日に取締役会によって承認されております。

ロシュ・ホールディング・リミテッドはスイス証券取引所に上場し、IFRSに準拠し業績を開示しているロシュグループの親会社です。当社グループはロシュとの戦略的アライアンスの締結により2002年10月よりロシュグループの主要なメンバーになっております。ロシュ・ホールディング・リミテッドは、当社株式の発行済株式総数のうち、59.89%（発行済株式総数から自己株式を控除したベースでは61.10%）を所有しております。

当社グループは、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）第1条の2第2号に定める指定国際会計基準特定会社の要件を満たすことから、同第312条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約中間連結財務諸表を作成しております。

この要約中間連結財務諸表には、年次の連結財務諸表で要求される全ての情報が含まれていないため、2024年12月31日に終了した前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

要約中間連結財務諸表は当社の機能通貨である日本円で表示し、百万円未満を四捨五入しております。公正価値による測定が要求されている一部の項目を除き、測定は取得原価に基づいております。

(b) 重要な会計上の判断、見積り及び前提

要約中間連結財務諸表の作成にあたっては、収益、費用、資産、負債及び偶発事象に係る報告金額に影響を与える判断、見積り及び前提の設定を行うことを経営者に求めています。これらの見積りは実際の結果と異なる可能性があります。見積りやその基礎をなす前提は、過去の経験や多くの要因に基づいて設定しており、継続的に見直しを行っております。見積りの変更による影響は、見積りの変更が行われた会計期間に認識しております。

当社グループの要約中間連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える判断、見積り及び前提に関する情報は、原則として前連結会計年度と同様であります。

(c) 会計方針の変更

当社グループの要約中間連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、一部の基準書において軽微な変更がありましたが、当社グループの業績及び財政状態に重要な影響はありません。



## ②重要な後発事象

当社グループは、2025年7月24日開催の取締役会において、下記のとおり新研究棟の建設を決定いたしました。

### (a) 建設の目的

新たな研究棟（UKX）は、TOP I 2030実現に向けた医薬品製法開発機能の強化及び環境対策推進を目的としています。UKXでは、製法開発に関わる多機能間のコミュニケーションを活性化するオフィス設計を採用し、また、研究効率を高めるラボオートメーションの活用にも取り組んでいきます。これにより、イノベーションと研究生産性の向上を促進し、難易度の高まる原薬製法確立までのさらなるスピードアップを実現していきます。

### (b) 資産の内容

所在地：東京都北区浮間 5－5－1

総投資額：800億円

### (c) 建設の日程

着 工：2026年5月

竣 工：2028年8月